

ポ－ラ文化研究所調査データにみる

「顔・かたち」と魅力

「年齢別にみた男性の意識と行動' 92」「年齢別にみた女性の意識と行動' 93」より

「男性から見た女性の魅力と顔・かたち」が
〈かなり関係する〉と考えている人は男女ほぼ
同数の約3割



見る・見られる関係の成立

「女性から見た男性の魅力と顔・かたち」が
〈かなり関係する〉と考えている男性28%に
対して女性はわずか10%と男女差は大



悩める男性誕生の予感

1993 12/08

ポ－ラ文化研究所

担当:高谷、村澤

はじめに

「人は見かけによる」というと、おそらく賛否両論が出てくるだろう。外見だけで左右されてはたまらないという人も多いだろう。しかし、外見、あるいは見かけ、といった視覚的な情報は、日常生活の中で、特に意識せずとも見た者の目に飛び込んで何らかの影響を与えずにはいられない。

また、「男は顔じゃない心だよ」という言い回しがある。こんな表現がある以上、男性にも「顔」に左右されることが充分あるのだろう。

TVのバラエティ番組のなかで「美容整形」の術前術後の本人の姿を紹介するものがあるが、最近では男性の「美容整形」も多いという。

「魅力」という言葉を手がかりにして「顔・かたち」の現在を調査データからまとめてみた。

調査データはポラ文化研究所で行なっている『年齢別にみた男性の意識と行動'92』（16～65歳 1050人）、『年齢別にみた女性の意識と行動'93』（16～65歳 1000人）による。

*次頁より使用するグラフの数字は、小数点以下第一位を四捨五入したもの

【年齢別にみた男性の意識と行動 '92】

調査概要

調査地域:首都圏30キロ圏内

調査対象者:16から65歳までの男性1050人

調査方法:戸別訪問面接聴取法および留置法

調査期間:1992年6月～7月

対象者年齢区分

高校生	75	30-39歳 (未婚)	150
19-24歳 (大学生)	75	30-39歳 (既婚)	150
19-24歳 (社会人)	75	42-45歳	100
25-29歳 (未婚)	75	46-49歳	100
25-29歳 (既婚)	75	50-59歳	100
		60-65歳	75 人

【年齢別にみた女性の意識と行動 '93】

調査概要

調査地域:首都圏30キロ圏内

調査対象者:16から65歳までの女性1000人

調査方法:戸別訪問面接聴取法および留置法

調査期間:1993年7月

対象者年齢区分

高校生	75	30-39歳 (未婚)	100
19-24歳 (大学生)	75	30-39歳 (既婚)	150
19-24歳 (社会人)	75	40-44歳	100
25-29歳 (未婚)	75	45-49歳	100
25-29歳 (既婚)	75	50-59歳	100
		60-65歳	75 人

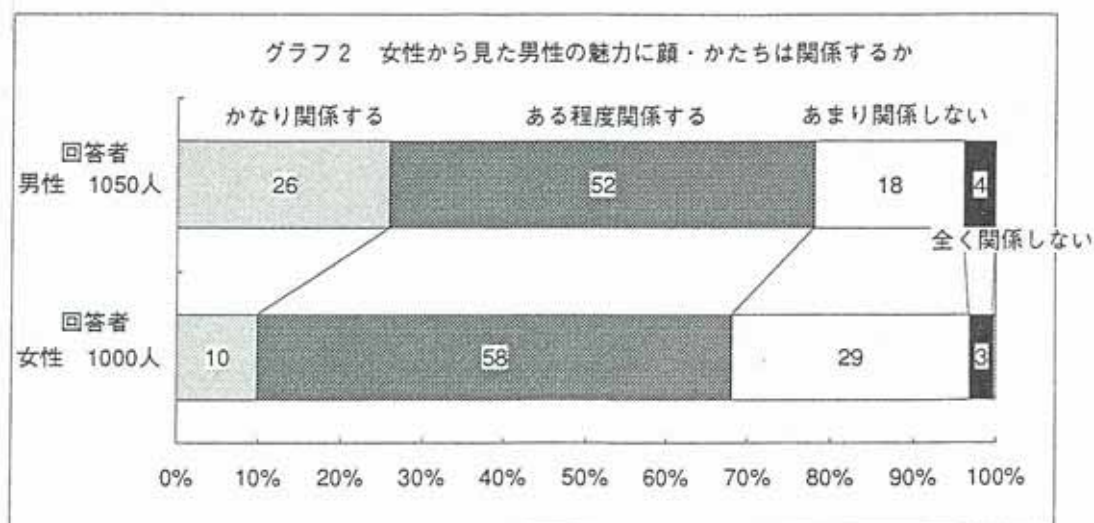
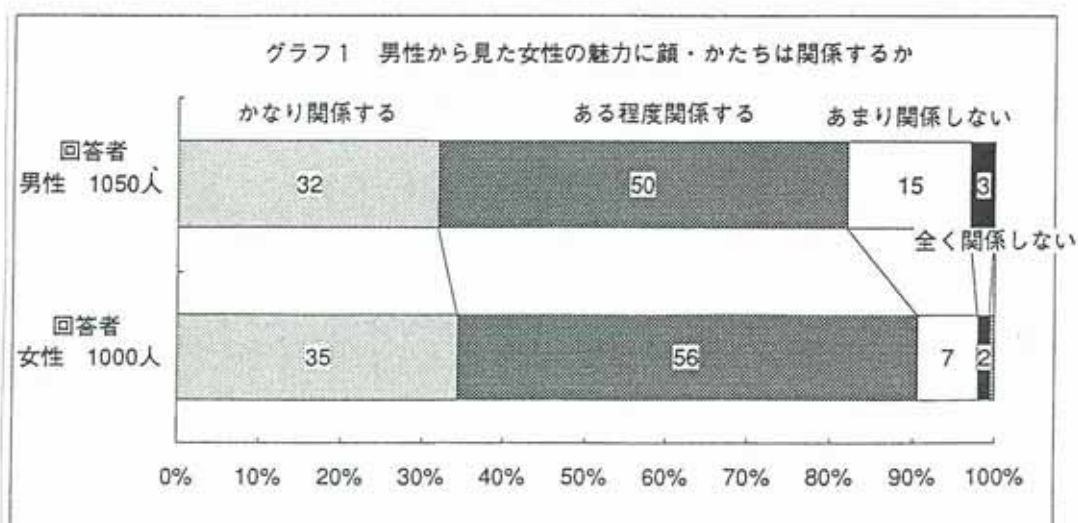
●魅力と「顔・かたち」

「魅力」の中で、「顔・かたち」の関係する程度を聞いたのがこの質問である。

まずは男性から見た「女性の魅力と顔・かたち」(グラフ1)について聞いてみた。「かなり関係する」と「ある程度関係する」を合わせると女性が91%、男性が82%と女性の方が高い。つまり見る男性よりも、見られる女性の方が「顔・かたち」を強く意識していることを示唆している。

では、逆に女性から見た「男性の魅力と顔・かたち」の方はどうだろうか(グラフ2)。この傾向は、「女性の魅力」の場合と同じく、見られる側の方が強く「顔・かたち」を意識している。ただし、「かなり関係する」では女性の10%に対して、男性は26%とその差は16%にもなる。男性でも顔・かたちが魅力に大きく関わると考えている人が4人に1人いることになる。

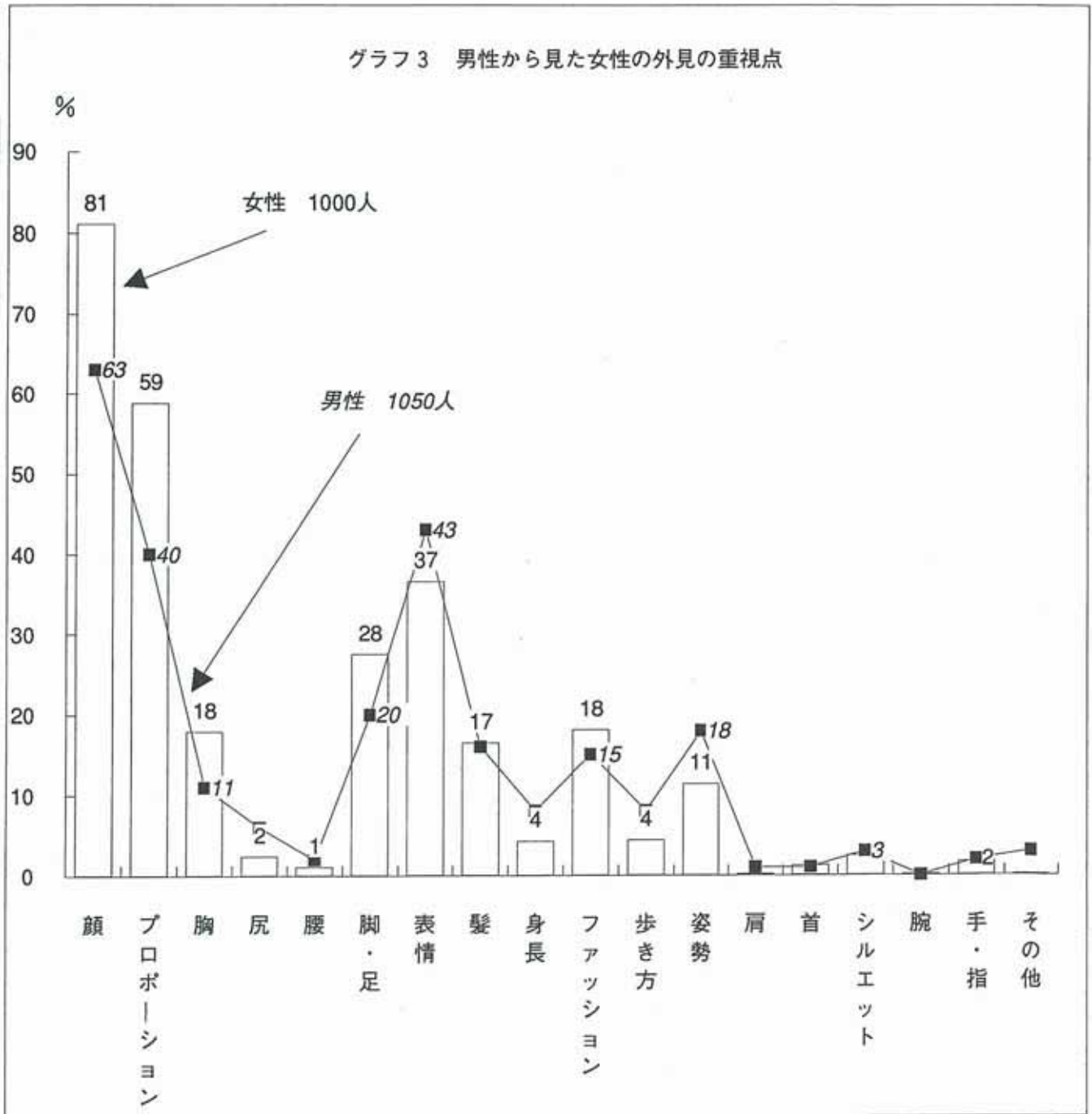
年代別に見て、「見られること」(「かなり関係する」が高い)をかなり意識しているのは、女性の〈16~18歳〉40%、〈30~39歳未婚〉44%、〈50~59歳〉でも39%と高い。男性は〈19~24歳(社会人)〉が39%と最も高い。



● 「外見の重視点」

まずは「男性から見た女性の外見の重視点」について（グラフ3）。男性の回答では「顔」が63%と高い。続いて「表情」43%、「プロポーション」40%とつづく。

一方、女性は「顔」81%、「プロポーション」59%、「表情」37%を男性が重視していると考えている。女性の全回答数のうち「顔」と「プロポーション」の二つの回答数だけで5割以上を占めている。



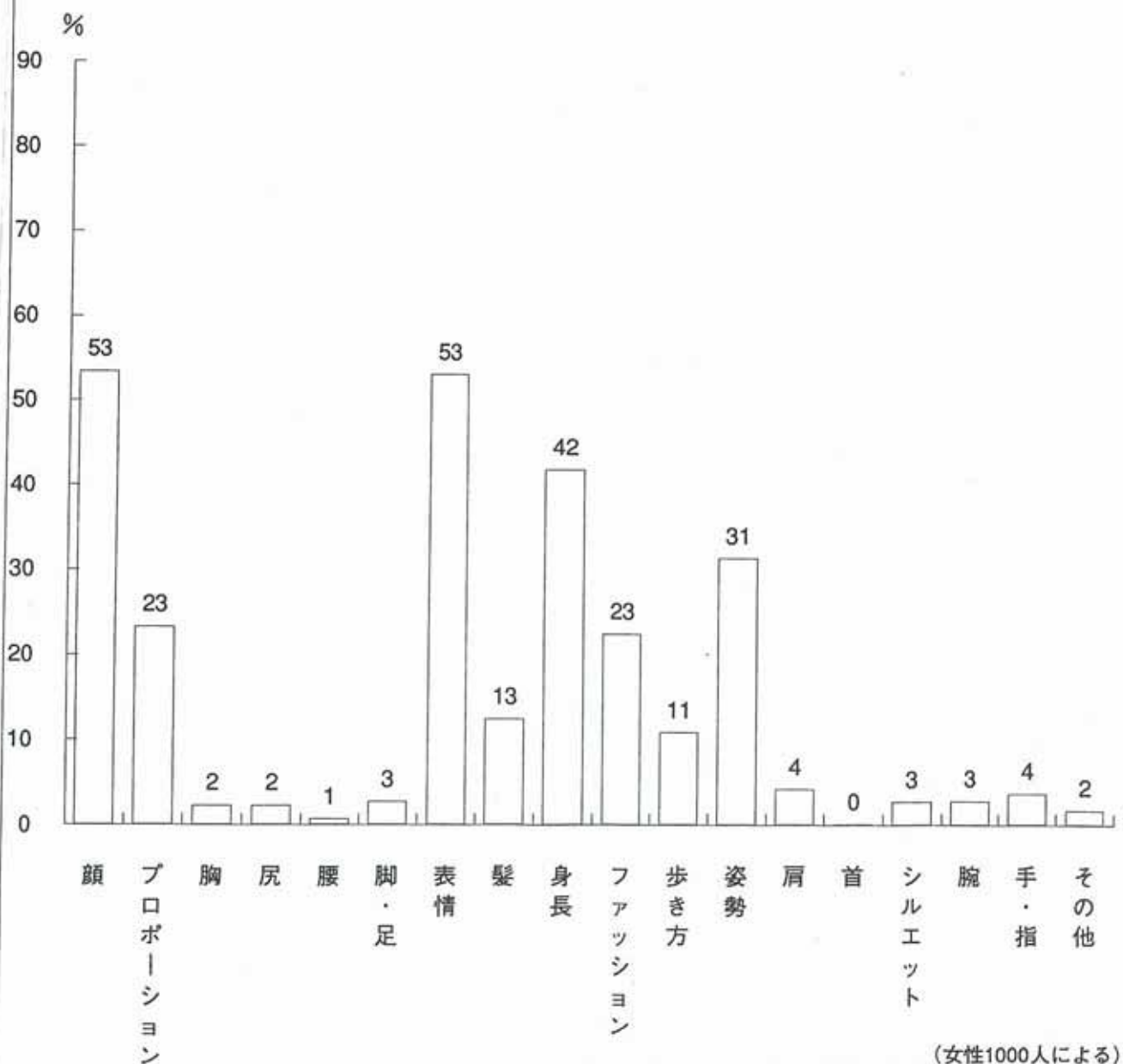
では「女性から見た男性の外見の重視点」について（グラフ4）。残念ながら手元には女性に訊いたデータしかない。

「顔」と並んで「表情」が53%とかなり高く、「身長」が42%、そこに「姿勢」が31%となっている。「ファッション」「プロポーション」が同じ23%。「姿勢」や「ファッション」がやや高いあたりは、男性の女性を見る目よりもシビアともいえる。

ただ、「顔」+「プロポーション」の76%よりも、普段の心がけ一つで変えられる「表情」+「姿勢」の84%の方が高い。

つまり女性は、「男性の外見」に関しては「顔」とともに「表情」をかなり重視しているのに、「男性の（女性を見る）視線」は「顔」「プロポーション」に集中していると考えているようだ。

グラフ4 女性から見た男性の外見の重視点



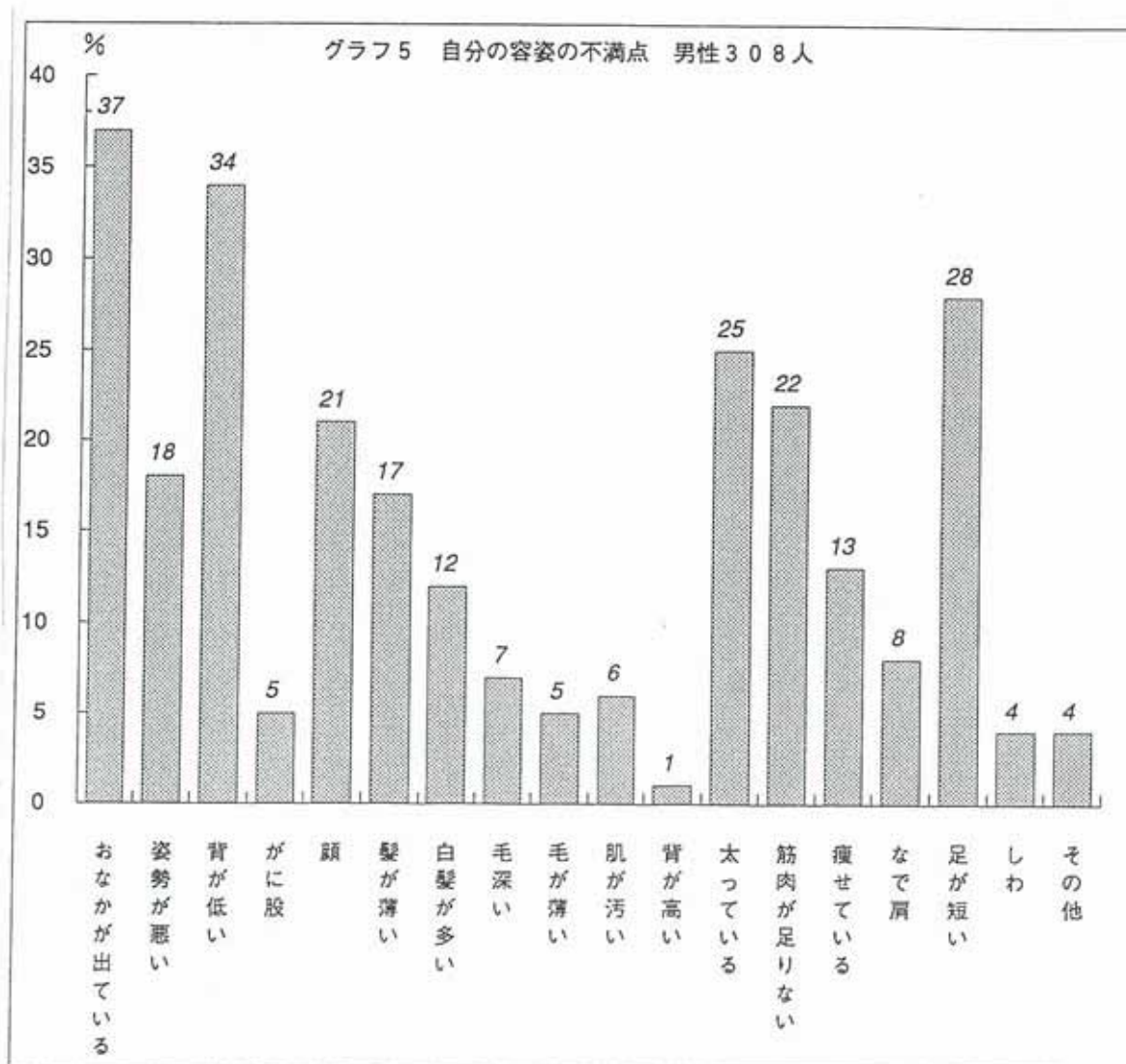
●「自分の容姿の不満点」

この設問は男性の側にしか聞いていない。まず「容姿に関する悩みの有無」を尋ねると1050人中308人が「ある」と答えた。

結果はグラフ5の通りだが、年齢別、項目別の特徴を見てみると、

- ・「おなかが出ている」は既婚者に多く、全年代でともに1位か2位。
- ・「背が低い」は19～24歳の社会人、30代後半に多い。
- ・「顔」に関しては高校生から19～24歳の社会人に多い。
- ・「毛深い」は20代後半に特異的に多い。
- ・「太っている」は19～24歳、30代既婚者に多い。
- ・「足が短い」は高校生、20代後半、40代半ばの団塊の世代に多い。

この中から、特に興味深いのは、24歳以下に多い「顔」への不満と、20代後半だけが24%と飛び抜けて高かった「毛深さ」への悩みである。この世代だけは数年前の「つるすべ」志向をなおも引きずっているようだ。



まとめ

結果をみると「女性から見た男性の魅力と顔・かたち」は女性よりも男性が「関係が深い」と考え、「男性から見た女性の魅力と顔・かたち」は男性よりも女性が「関係が深い」と考えている。

つまり、男女とも現実の異性からの視線以上に「見られている」自分を意識していることがあきらかになった。

その中で、とくに印象の強いのは男女差である。

女性の「顔・かたち」に関しては見る・見られる関係が男女相互で成立している。

一方、男性の「顔・かたち」では男性の側は見られることをかなり意識しているものの、女性の見る意識は必ずしも高くない。「女性から見た男性の魅力と顔・かたち」が「かなり関係する」と答えた女性は10%であったのに対して、男性は26%とかなり大きな開きがある。女性は男性の外見よりも内面を重視しているのだろうか？

最近、過度なダイエットや「拒食症」「過食症」、あるいは「からだ」に関わる悩みを抱える人に、若い男性が増えているという。

「見てほしい」が「見られない」男性の「孤独」といえば言い過ぎかもしれないが、今後の「顔・かたち」に関する男性の意識の大きな変化を予想させる。

それは一方的に「見る」立場であった日本の男性が「見られる」ことを意識しはじめたということだろうか。とすると、これまで女性に強くあてはめられてきた「美醜」という差別に男性もまた悩む時代がくるのだろうか？

「からだ」について悩める男性が増えつつあるのはその兆しかもしれない。

思えばここ5年ほどは「ショーユ顔」「ソース顔」、あるいは「ツルスベ志向」など男性の外見に関する話題に事欠かなかった。そんな風潮の中で男性の外見に関する認識が少し過敏になりつつあるのかもしれない。幸か不幸か、女性はまだそこまでは男性の「顔・かたち」を見てはいないようだ。

すでに見られる立場のプラスマイナスを経験してきている女性がどう男性を見ていくのか。その見守り方に「見られる男性」の未来がかかっているように思える。